

何年も前から下肢静脈瘤の症状があります。生活に支障はなく、毎日家事をこなし、3600歩の運動も可能です。手術が必要とも聞きますが、手術をした人は「手術後歩みにくい」などと言います。放っておくとどんな悪い面があるのでしょうか。(80歳、女性)

下肢静脈瘤



久保清景医師

症状は確実に悪化、早期治療を

脚の皮膚表面に近い静脈がこぶのように膨らむなどする病気が下肢静脈瘤です。静脈には逆流を防ぐ弁があり、この弁が壊

方は何年も前から症状があるの中等度程度と考えられます。皮膚が赤茶色になる色素沈着や、湿疹、潰瘍ができれば重症です。命に関わりませんが、放っておくと症状は確実に悪化するので早期治療をお勧めします。

血管の超音波検査で、表面と深部の静脈の状態を調べて治療します。内科や整形外科に関わる病気が隠れていないか、深部の静脈にも逆流がないかなど詳しく診察することが大事です。治療は医療用の弾性ストッキングを使う圧迫療法、細かな血管に硬化剤を注射する硬化療

手術後に再発した場合や症状によっては複数の治療を組み合わせていきます。ほかの病気が隠れていないか診断してもらい、複数の治療が可能な医療機関を受診されるのが良いでしょう。(兵庫県医師会、久保清景(神戸市垂水区、くぼクリニック院長) ◆第1、3、4日曜に掲載します。

れて血液が逆流し、血管が徐々に膨らんで静脈瘤になります。加齢に伴って静脈瘤の方は増え、立ち仕事の人や女性に多いとされます。妊娠や出産を契機に発症することもあります。当初は症状がありませんが、徐々に脚のむくみやだるさ、こむら返りなどが起きます。この

大きく三つに分かれます。伏在静脈瘤は最も太い静脈がこぶのように膨らみます。治療希望者の多くがこのタイプです。側枝静脈瘤は伏在静脈の枝にでき、主に膝下に多く現れます。網目・クモの巣状の静脈瘤は直径数mmの静脈や毛細血管が青色や赤紫色になって無数に浮き出ます。

法、皮膚をうりほど切って静脈を縛る結紮術、静脈を抜き取るストリッピング手術、レーザーやラジオ波などで血管を中から焼き固める血管内焼灼術、血管の中に接着剤を入れて血管を固めるグルー治療があります。どの治療も日曜りで対応できます。